令和８年度(2026 年度) BRIDGE 構築事業「アントレプレナーシップ教育」推進プロジェクト

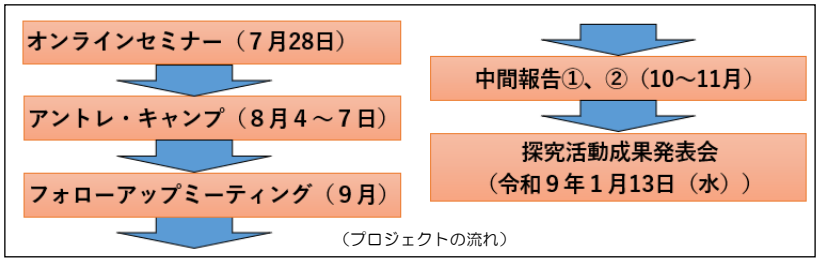
アントレ・キャンプレポート

令和８年８月４日（火）～７日（金）の３泊４日の日程で、「『CHANGE MAKER※ CAMP』～社会課題を変える“みらいの道具”を創れ～」をテーマに、高校生のアントレプレナーシップを育むことを目的として、ネイパル深川を会場に「アントレ・キャンプ」を実施しました。

※「CHANGE MAKER」＝「試行錯誤を繰り返し、社会に変化を起こす人」のこと

全道から集まった６校23名が参加し、それぞれ多様な分野に興味・関心や課題意識をもつ仲間とチームを結成し、社会課題の発見から解決策の提案、試行までを体験しました。

今回のレポートでは、アントレ・キャンプの様子をお伝えします。



（プロジェクトの流れ）

＜概要＞

〇講師

北海道大学　産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部　特任准教授　椎名　希美　氏
小樽商科大学　グローカル戦略推進センター産学官連携推進部門　学術研究員　大湊　亮輔　氏
株式会社すみか　代表取締役　月館　海斗　氏

オンラインセミナー（７月28日）

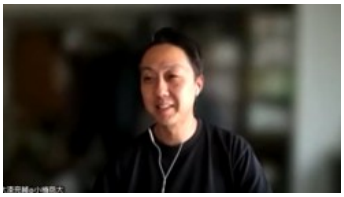
【起業家マインド講座、アントレプレナー事例紹介】

「アントレプレナーシップ」とは、単に会社をつくること（起業）を指すのではなく、「変化をチャンスと捉え、自ら進んで行動し、価値を生み出すマインドやスキル」のことで、誰にでも必要なものであり、誰でも発揮できるものであることを、高校生による取組を含む、様々な事例を通して理解

講師　北海道大学　椎名氏

【社会課題のインプット】

人口減少、高齢化、フードロス、地球温暖化などの身近な社会課題を取り上げながら、それらの何が問題なのかを考えたり、「理想の未来」と「現状、現在」とのギャップから課題を考えたりするなど、自分が住む地域や北海道、日本や世界の理想の未来を考えることを通して社会課題を捉える活動


講師　小樽商科大学　大湊氏

１日目（８月４日）

【テーマ】課題発見と「問いを立てる」

１　自己理解と他者理解

・自分自身のことを伝え合うアイスブレイクと、キャンプに参加した理由や抱負の表明

２　チームビルディング

・オンラインセミナーの内容を踏まえ、実現したい理想の未来と、そのために解決したい課題についての考えを共有し合い、興味をもった分野が近い生徒同士でチームを編制

３　アイデア発想・課題発見ワーク

・課題の背景や原因を探る「問い」の立て方、課題の解決に向けた視点やヒントを学習
・チームごとに、課題の深堀りと仮説の設定

自分自身のことを伝える活動の様子

全員と自分の考えを伝え合う活動の様子

2日目（8月5日）

【テーマ】学生起業家との対話、アイデアを広げる、プロトタイピング

1　仮説検証とプロトタイピング概論

- 課題を解決のための仮説、仮説を証明するためのプロトタイプ制作について学習
- “WHO（誰に）” “WHAT”（何を） “HOW”（どのように）を考え、仮説づくりのためのインタビューを実施し、仮説設定後は、仮説検証のためのインタビューを実施

2　アイデア構築、プロトタイプ制作

- アイデアを実際に試して、仮説検証をするためのプロトタイプ（試作品）づくり
- プロトタイプについて、フィードバックをもらって改善する過程を重視

3　学生起業家のプロトタイプづくり

- 学生起業家が作ったゲーム（チャレンジ・ピッツァ）を通して、ビジネスに必要なマインドを楽しみながら学習
- 学生起業家の皆さんによる、チームごとの活動への伴走支援

大学生による伴走支援の様子

3日目（8月6日）

【テーマ】中間発表、フィードバック、再試行と改善

1　中間発表

- 制作したプロトタイプや今後の探究活動の方向性について発表、交流

2　プレゼンテーションの工夫

- 中間発表の振り返りとして、“Keep”（よかったところ）” “Moyamoya”（もやもやしたところ）“Question”（気になるところ）” “Try”（やってみようと思うこと）というKMQT（ケモキュート）法を活用し、チーム内に生じたモヤモヤや問いを可視化
- 「伝える」と「伝わる」は違うということ、また、伝える際には、「感情」、「論理」、「技術」の順にステップを踏むと効果的であることを理解

講師　株式会社すみか　月館氏

3　アイデア再構築、プロトタイプ制作、プレゼンテーション

- 最終発表に向けたグループ活動

4日目（8月7日）

【テーマ】発表、振り返り、今後の活動に向けたアクション宣言

1　最終発表

発表概要（アイデア）	チームメンバーの所属
・悪口の拡散を防止するアプリ	岩見沢東、旭川商業、浦河
・教師の事務作業負担を軽減させるシステム	岩見沢東、砂川、函館西
・教材を循環させる仕組み	岩見沢東、旭川商業
・子育て支援のためのベビーシッター検索サービス	旭川商業、砂川
・教師の授業改善や生徒の授業理解を助けるアプリ	岩見沢東、砂川、浦河
・シビックプライドを向上させる仕掛け	岩見沢東、砂川、千歳、旭川商業

2　修了式

- 高校教育課から「修了証」を授与
- チームは学校を超えて編制していることから、今後はオンライン等で連絡を取り、探究活動を継続

＜参加生徒の声＞

○　短期間で集中して取り組んだことで、初めて探究のサイクルを実感することができた。

○　様々な考え方があり難しかったが、課題の設定や解決のための方法など、学ぶことが多かった。